

岡崎南公園整備事業における環境保全対策

安藤ハザマ・朝日工業特定建設工事共同企業体 入江 史明

1.事業概要

開園後 60 年を迎えた利用者数 40 万人を誇る岡崎市南公園の老朽化に伴う更新工事。老朽化した公園施設の改修・更新を行い、今まで以上に愛されるコンセプトでもある「家族が笑顔になれる公園」を目指す。

南公園をより魅力的で利用しやすい空間にリニューアルすることで、地域の活性化や市民の交流促進に貢献する。

PFI 事業であり、SPC より解体撤去工事・土木工事等を請け負う。

尚、発表者は幼少の頃南公園によく来園しており、思い入れの強い公園である。



2.工事概要

開発面積 7.8ha、造成切盛土工 V=33,000m³、解体工 1 式、造成工 1 式、植栽工 1 式、給排水設備工 1 式、電気設備工 1 式、園路広場整備工 1 式、遊戯施設整備工 1 式、サービス施設整備工 1 式



(完成イメージ図)

3. 仮設防災・濁水防止への取組み

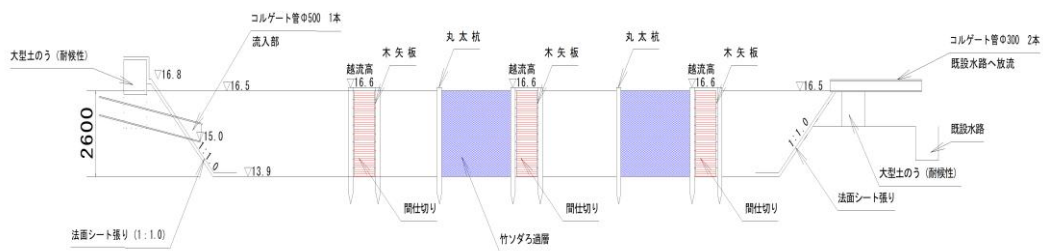
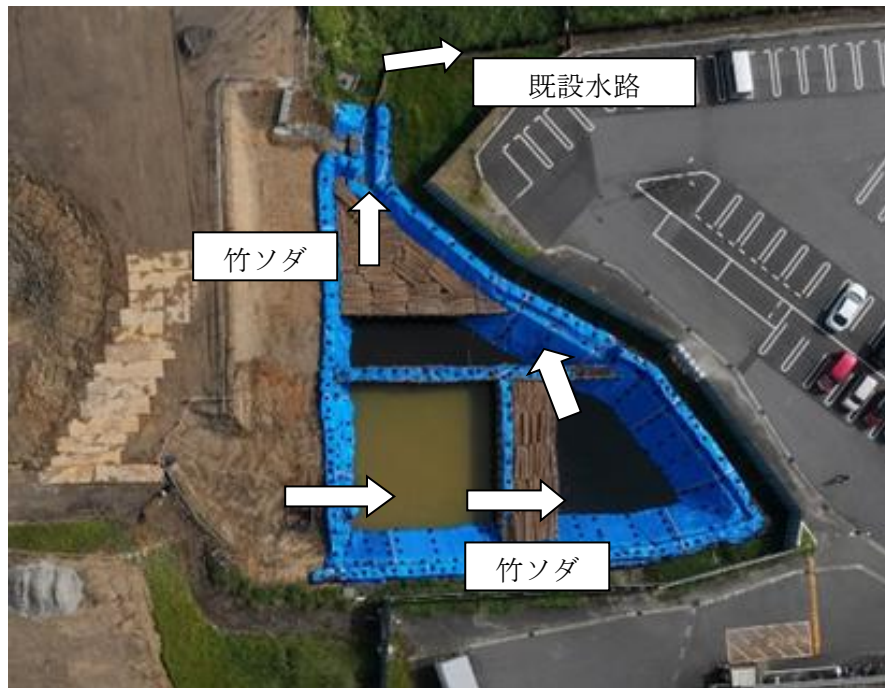
1) 矢作川方式の竹ソダ沈砂池による濁水処理

矢水協基準では、対象面積 3.75ha に対し 1ha あたり 400 m³ の沈砂池が必要となる。

有効容量 1,540 m³ の沈砂池を現場内最下流部に施工した。

尚、竹ソダは 320 m³ (21%) 設置した。

沈砂池設置、仮排水を造成に先立ち施工することにより、造成工事初期に懸念されるトラブルを防いだ。



2) 裸地の保護による土砂流出の防止

当初野球グラウンドであった箇所を造成し、多目的広場へと改変した。

造成時期が夏場であったため、造成後直ぐに張芝が行えず広場全体裸地からの土砂流出が課題となった為、「浸食防止剤 (クリコート)」を散布し裸地を保護した。

盛土法面となる箇所で植生が設計されていない箇所については、藁芝にて法面保護を行った。また進入路には鉄板を敷き砂埃の飛散を防いだ。一時的に裸地となる法面はブルーシートにて養生を施した。



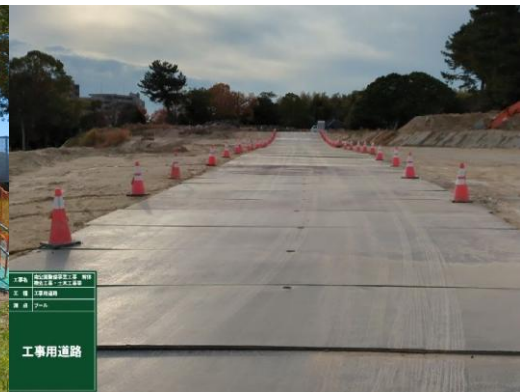
浸食防止剤散布状況



藁芝による法面保護



法面ブルーシート養生



進入路鉄板養生

3) その他濁水対策等の工夫

更なる対策として、排水路へ竹ソダを設置し河川への土砂流出の防止、法肩に土のうを設置し法面崩壊・土砂流出の防止、集水桝に伐採した樹木を流用したフィルターソックスを設置することにより土砂の流入防止を行った。

地盤改良時にはPH処理機を設置し、アルカリ水が流出することのないようにした。また日々水質を計測し異常のないことを確認した。



排水路へ竹ソダ設置



土のうによる法肩養生



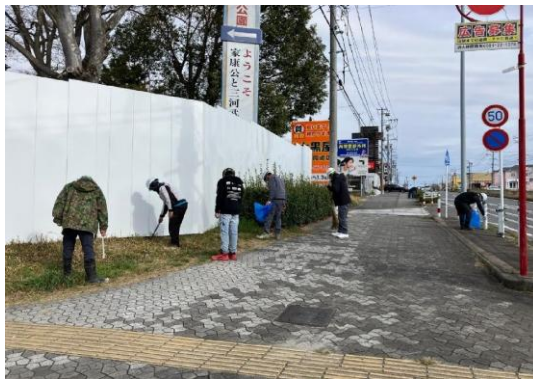
フィルターソックス設置状況



PH 処理機設置状況

4.地域とのコミュニケーション

現場入場している全員で月に1回現場周辺を清掃し、地域貢献を図っている。
またホームページを開設し、現場の進捗などを定期的に公開し現場をできるだけオープンにし、身近なものに感じてもらうように工夫している。
地域の祭りに協賛し参加することにより、街を一緒に盛り上げ地域の仲間として認められている。



地域清掃活動



HP 開設

5.まとめ

本体造成工事では、スムーズに雨水を仮設沈砂池に導けるように排水することのできるよう仮設水路の設置に苦勞したが、雨が少なく助けられた。
また矢水協様からのご指導、日頃からの防災対策の成果として25年9月に発生した台風15号による記録的大雨時においても、土砂流出などトラブルの発生は無かった。
また着工以来、建築工事合わせ無事故無災害を継続できており、苦情などのトラブルも発生していない。
「楽しく仕事をして楽しい公園を造ろう」というスローガンのもと竣工までトラブルのないよう現場を運営したい。